



滝田医院ニュース

022-0001 岩手県大船渡市末崎町字細浦77番地 滝田医院
電話0192(29)3108 内科・循環器科・消化器科・呼吸器科・リハビリテーション科

日本内科学会認定総合内科専門医・日本循環器学会認定循環器専門医 滝田 有

第18号

発行日 2009(平成21)年2月25日

「予約制」の診療について

目次:

予約診療について	1面
講演会報告	1面
気仙人のための…	2面
第二回	
花粉症	2面
診察室から	2面

当院は昨年10月から本格的に「予約制」を導入しています。ご協力をありがとうございます。

高血圧や糖尿病、高脂血症(コレステロール異常症)など慢性的な病気で、当院に継続して通院が必要な患者さんは原則として、次回受診日時を予約していただいています。それ以外の患者さんや新しい患者さんについては予約は不要です。ただし診察の順番は予約患者さんが優先となります。従って新患の方や臨時受診の患者さんで待ち時間に余裕のない方や具合が悪い方は遠慮なくお申し出下さい。早めに診察するように調整します。

また、予約した時間は30分単位で数人の方が入っています。従って9時の予約だからといって必ずしも9時には呼ばれませ

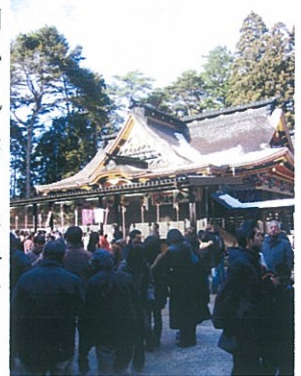
ん。時間に余裕を持ってお越し下さい。

内科は患者さん毎に、またその日毎に診察時間が違ってきます。従って予約時間から遅くなってしまうこともやむを得ません。

予約制の一番の目的は患者さんの待ち時間を極力少なくすることにあります。そして二番目の目的は、臨時休診とは知らずに来院してしまう患者さんの「無駄足」を防ぐことです。

予約制に関して、ご不満やご提案があれば、医師にお話下さい。

写真：平成21年元旦の大崎八幡(仙台市青葉区)



3月の診療予定

もろもろの事情により、

毎週月曜日は全て休診

とします。

また土曜日は毎週診察する予定ですが、

3月21日(土)のみ

休診

とします。

(大阪で開かれる日本循環器学会に出席するためです。)

自らの脳卒中体験を語る

昨年12月14日に大船渡市民交流館カメリアホールで大船渡保健所主催の気仙地域脳卒中予防公開講座が開催されました。寒い中、一般市民や関係者200人が集まりました。基調講演のあとのパネルディスカッションで「患者の立場から」当院医師が自分の体験を語りました。パネラーとしては、当院医師を救急搬送して下さった救命救急士の新沼さんや緊急手術をして下さった脳外科の山野目先生も出席しました。右の写真は東海新報に掲載されたものです。(転載許可をいただきました。)

「自分は大丈夫」との根拠のない自信から一回も血圧を測定したことはなかった事、昨年1月9日のクモ膜下出血により自分の生活の土台が一旦は崩れ去った事、更には貴重な体験を基に今後の医療に

生かしたいと考えている事、などを話しました。

また今年に入って2月18日は大船渡市保健介護センター主催の生活習慣病講演会がリアスホールで開催され、講演をしてきました。こちらも140名の方が聴きにこられました。ここでは高血圧をテーマに約一時間お話をさせていただきました。高血圧そのものは症状が現れない事、家庭血圧を測るのは大変重要だが、その数値に一喜一憂しない事、更に高血圧を治療する目的は脳卒中や心筋梗塞など動脈硬化性の怖い病気をふせぐためである事などが主な内容でした。



気仙人のための、上手に医者にかかる方法(第二回)

実は前回の紙面でこの記事が一番反響があった。「楽しみにして読みはじめたが、本筋はこれからなんだね。」とか「よくぞ書きにくいことを書くとしたものだ。」など肯定的なお話が多かったように思う。そこで勇気を持って筆を進めて行きたい。

この寒い季節で一番困るのは皆さん、外を歩くような格好で診察室に入って来られる事がいちばん困る。診察とはお話を聞く(問診という)だけでなく、聴診器を当てて雑音がないかどうかを確認したり、「カフ」を巻いて血圧を測ったりするのが一般的である。

特に血圧を測るとき、着衣でも可能なのはせいぜいワイシャツやブラウスなど薄手の服の上からである。それ以上の厚さになるととても正確な血圧は測れない。また厚手の服を捲り上げて腕を

出してもやはり正確な血圧は測れない。皆さん寒い戸外で仕事をしている方が多いので、肌に着た服を重ねて着てくる人が多いし、ジャンパーなどの外套を着たまま入ってくる人も多い。診療所の中はせっかく暖房で暖かくしているので、一枚でもいいから服を脱いで診察に入りたい。わざわざ医者に来るために仕事中の服からきれいな服に着替えてくる人も多い。医者としては綺麗でなくともいいから、脱ぎやすい、或いは腕を捲り上げやすい服で、来ていただきたい。何だそんなことか、と思うかもしれない。しかし自分が長く仕事をした仙台では服一枚は脱いで入ってくるのが普通である。よく気仙の大きな病院では、ろくに聴診器も当ててくれない、という苦情を耳にする。しかし当てたくとも当てられない服を着て診察を受けようとする患者さんにも非はある。



花粉症について

インフルエンザや感染性胃腸炎の流行が収まってきたかと思ったら、今度は花粉症の患者さんが増えてきた。実際の症状はまだ軽い人が多いが、「今年はスギ花粉の飛散量は桁違いに多いと予測される。症状が出てくる前から初期療法をした方がよい」とのテレビ放送の影響も強いようだ。

花粉症には抗アレルギー薬を使う方がよい。しかし抗アレルギー薬は効き目や副作用には個人差がある。太郎君に効いたからといって花子さんに必ずしも効くわけではない。また一郎君は薬で眠くなる副作用が出るからと言って、優子さんにも眠気が生じるわけではない。

自分が満足できるレベルの抗アレルギー薬を医者と一緒に探し出すことが必要だ。またそれをしなければ医者に行く価値がない。医者をどんどんうまく利用して欲しい。効かないときは「効かない」とはっきり言って欲しい。下手に遠慮して本当のことを言わないとあなたにとってベストな薬を見つけれなくなってしまいます。



診察室から

麻生太郎さんの支持率がどんどん低下していると言う。政権にしがみつくな！早くやめよ！選挙をしろ！！とテレビでは連日攻撃されている。彼自身はあまり好きではないが、冷静に考えて彼は極端な失政をした訳ではない。確かに未曾有の経済危機の状況で景気浮揚策は不完全かもしれないが、まだ評価できるほどの在任期間ではなかろう。攻撃される材料は殆どが小泉純一郎さんが蒔いた種である。しかし純一郎さんが何か言う

とやんやの大喝采。支持率の調査はどんどん短期の間隔になっている気がする。そんなに気に食わぬものを引きずりおろしたいのだろうか？そのくせ強いものには露骨に尻尾を振っていく。

大正の軍縮会議、昭和初期の大陸進出などの際して日本の針路を誤らせたのは、マスメディアの誘導に負うところが大きいと思う。そしてこの平成の御世もまた然り。